

## 14) 学生生活心得

本校の学生は、各人の人生の骨格を形成する重要な時期を、本校で過ごすことになる。この間の生活態度が自己の将来に多大の影響を及ぼすことに思いを致し、以下の「心得」にそった自律的な生活を営むことを期待する。

### 1 目標の確立

自己の目標をしっかりと定めることは、学生各人の現下の急務である。目標が確立すれば、この目標を達成するために今何をすべきかが自ずから分かってくるし、困難に耐える力もわいてくる。青年の生活が輝くのは、現在のためでなく、未来のために生きる時である。目標のない、安易なその日暮らしに陥り、青春を空費するようなことがあってはならない。

### 2 礼儀、挨拶

礼儀や挨拶は、人と人との交わりを深め、集団生活を円滑に営むために欠くことのできないものである。各人が粗野な言動を慎み、進んで挨拶を行うことに努めれば、教職員と学生、学生相互の間に、敬愛、親和の気風が生まれ、明るい学園生活を送ることができるであろう。

### 3 環境の美化

生活環境は、そこで生活する人の心に無自覚的影響を及ぼすものであるから軽視してはならない。校内特に教室が清潔であることは、学習の成果を高める一助となる。学園に清爽の気を保つべく、各人が清掃、美化に努めなければならない。

### 4 余暇の善用、特にクラブ活動への参加

高専は週5日制であり、また大学受験準備から解放されているので、学生は比較的多くの余暇に恵まれることになる（長期休業以外の時期の土、日曜日は、5年間で約350日）。この余暇を善用するか否かは、人間形成の上で大きな差を生ずる。休日等に、クラブ活動、自学自習（学校の勉強に限らない）、読書、ボランティア活動などに励むことは大きなみりをもたらす。特にクラブ活動に参加することは、単に趣味の楽しみを深めることになるだけでなく、能力や人格の育成に資するところが大きい。

それは、長期にわたって活動を持続することによって技術、知識、体力、精神力、協調性、指導力、克己心等を身につけることになるからである。これに反し、アルバイトにふけることは往々にして学生生活のリズムを崩し、勉学の妨げになる。アルバイトによって得るものよりも失うものの方がはるかに大きいことを思うべきである。

## 5 校則、寮則、モラル、交通法規等の遵守

校則や寮則は、個々の学生が健全な学生生活を営むため、また学校や学寮の秩序を保って教育の実を挙げるために定められたものである。また社会通念となっているルールやモラルは、対人関係を良好に保つために必要な約束ごとである。これを守らなければ信用を失ったり、人に不快感を与えたり、迷惑を及ぼしたりすることになる。さらにまた、交通法規に従わなかった場合加害者として、あるいは被害者として深刻な状況に直面することになることは常に意識しておくべきである。学校、社会の諸規則の存在理由を認識し、進んでこれらを守る態度を養う必要がある。

## 6 交際について

交際は、互いの人格に対する敬意に基づき、年齢や、学生であるという立場をわきまえた健全なものでなければならない。